

総 論

樹神 昌弘

川畑 康治

本報告書では、開発途上国の産業構造変化にかかわる経済現象に、複数の側面から光を当ててみる。

開発途上国の産業構造変化という研究課題は決して新しいものではない。ルイス (1954) やフェイ＝ラニス (1961, 1966)、ジョルゲンソン (1961) 等は 1950-60 年代にかけて、伝統的部門と近代的部門の 2 部門から構成される経済を想定し、この経済がどのように成長していくのかを経済モデルを用いて説明している。その後、チェネリー＝シルキン (1975) やチェネリー＝ロビンソン＝シルキン (1986) 等による「産業構造変化が発展段階のどのようなタイミングで生じるのか」という分析が行われている。このように産業構造変化を明示的に意識した開発途上国の研究は、少なくとも 50 年以上の歴史を持つものである。

それでは、本報告書において、なぜ我々はこのように古くから存在する研究課題に今一度焦点を当てようとしているのだろうか。それは、マクロ経済学の最先端において、産業構造変化についての研究をより深めようとする潮流が北米の経済学界を中心に生まれてきているためである。特に 2000 年以降、産業構造変化に関する重要な研究が次々と発表されてきている。たとえば松山 (1992) やエチェバリア (1997) の研究をベースに産業構造変化と均整成長を融合させたコングサムット＝レベロ＝クシ (2001) や、同様の分析で技術進歩の重要性を明示したンガイ＝ピサリデス (2007) やアセモグル＝グエリエリ (2008)、産業構造変化における需要変化の重要性を強調したフェルミ＝ツバイミュラー (2008) 等がある。また部門間での生産性の違いを強調したものとして、カッセリ (2005) やレスチュッチャ＝ヤン＝ズー (2008)、デュアルテ＝レスチュッチャ (2010) 等がある。最近ではこのような研究の盛況を裏付けるように、レスチュッチャ (2013) やハーレンドーフ＝ロジャーソン＝ヴァレンティンイ (2014) による *Handbook of Economic Growth* 掲載の展望論文や、*Review of Economic Dynamics* 誌による特集号¹が出版されている。本報告書は、以上のような北米の経済学界を中心とした産業構造変化研究の最先端の動向の一部を伝える、あるいはその議論をより深めようとするものである。

本報告書では、特に、開発途上国の産業構造変化に関わる以下の 4 つの研究課題を取り上げる。第 1 章では、産業構造変化の発生要因に関するこれまでの研究の流れを紹介する。どのような要因により産業構造変化が発生するのかというのは、多くの人が抱く基

¹ 2013 年 16 巻 1 号。

本的な疑問であろう。産業構造変化の発生要因は所得弾力性による需要要因と技術進歩等による供給要因に大別されるが、それぞれの要因に対してこれまで複数の仮説が提出されている。それではどの仮説が妥当なものなのであろうか。第1章では、こうした産業構造変化の発生要因についてのこれまでの研究成果を論じる。

第2章では、開放経済と産業構造変化の関係について焦点を当てる。これまでの実証的な産業構造変化研究は、閉鎖経済を念頭に議論を展開していたものが少なかった。しかし、現実の世界においては、閉鎖経済の国はほとんど存在していない。そこで、閉鎖経済モデルを開放経済モデルに修正した場合には、どのようなことが観察されるであろうか。この章では、この開放経済と産業構造変化の関係を巡る問題を議論する。

第3章では、産業構造変化が貧困問題に与える影響についての議論を紹介する。一般的に工業化・サービス化はその国の一人当たり GDP を引き上げるとされている。ただし（GDP を人口で割った値である）一人当たり GDP の増加は、貧困層が少なくなることの意味するとは限らない。工業化・サービス化により富裕層のみの所得が増加する場合であっても、一人当たり GDP は増加することになる。左記のような状況も想定される中で、現実には産業構造変化は貧困問題にどのような影響を与えているのだろうか。本章では、この問題についてのこれまでの研究の成果を概観する。

最後に、第4章では、金融発展と産業構造変化の関係についての実証分析を行う。特に、本研究では、金融部門の発展を、（1）間接金融（銀行部門）の発展、（2）直接金融（証券部門）の発展の2つに分割した分析を実施した。その上で、間接金融、直接金融、産業構造変化の3者の因果関係を特定化することを試みた。

すでに述べたように、産業構造変化についての研究は、北米の経済学界においては、近年、再び盛り上がりを見せている分野である。これに対して、管見の限りでは、このような潮流を捉えた邦語の文献は極めて少ない。本報告書がそのような欠落を埋めるための一助となれば幸いである。

参考文献

- Acemoglu, Daron, and Veronica Guerrieri. 2008. "Capital Deepening and Non-Balanced Economic Growth," *Journal of Political Economy*, 116, no. 3: 467-498.
- Caselli, Francesco. 2005. "Accounting for Cross-country Income Differences," in P. Aghion and S. Durlauf eds., *Handbook of Economic Growth 1A*, Amsterdam: North-Holland.
- Chenery, Hollis, and Moises Syrquin. 1975. *Patterns of Development: 1950-1970*. Oxford: Oxford University Press.
- , Sherman Robinson, and Moshe Syrquin. 1986. *Industrialization and Growth: A Comparative Study*. Oxford: Oxford University Press.
- Duarte, Margarida, and Diego Restuccia. 2010. "The Role of the Structural Transformation in

- Aggregate Productivity,” *Quarterly Journal of Economics*, 125, no.1: 129-173.
- Echevarria, Cristina. 1997. “Changes in Sectoral Composition Associated with Economic Growth,” *International Economic Review*, 38, no. 2: 431-452.
- Fei, John, and Gustav Ranis. 1961. “A Theory of Economic Development.” *American Economic Review* 51, no. 4: 533-65.
- . 1964. *Development of Labor Surplus Economy: Theory and Policy*. Homewood, Illinois: Richard D. Irwin.
- Foellmi, Reto, and Josef Zweimuller .2008. “Structural Change, Engel’s Consumption Cycles and Kaldor’s Facts of Economic Growth,” *Journal of Monetary Economics*, 55: 1317-1328.
- Herrendorf, Berthold, Richard Rogerson, and Akos Valentinyi. 2014. “Growth and Structural Transformation.” in P. Aghion and S. Durlauf eds., *Handbook of Economic Growth* 2, Amsterdam: North-Holland.
- Jorgenson, Dale. 1961. “The Development of Dual Economy.” *Economic Journal* 71, no. 282: 309-34.
- Kongsamut, Piyabuha, Sergio Rebelo, and Danyang Xie. 2001. “Beyond Balanced Growth,” *Review of Economic Studies*, 68, no. 4: 869–882.
- Lewis, Arthur. 1954. “Economic Development with Unlimited Supplies of Labor.” *Manchester School of Economic and Social Studies* 22: 139-91.
- Matsuyama, Kiminori. 1992. “Agricultural Productivity, Comparative Advantage, and Economic Growth.” *Journal of Economic Theory*, 58: 317–334.
- Ngai, Rachel L., and Christopher Pissarides. 2007. “Structural Change in a Multi-sector Model of Growth,” *American Economic Review*, 97, no. 1: 429-443.
- Restuccia, Diego, Dennis. T. Yang, and Xiaodong Zhu. 2008. “Agriculture and Aggregate Productivity: A Quantitative Cross-country Analysis,” *Journal of Monetary Economics*, 55: 234–250.
- . 2013. “Factor Misallocation and Development.” in S. N. Durlauf and L. Blume eds., *The New Palgrave Dictionary of Economics* 2nd ed., NY: Macmillan.